

編 集 後 記

今年の夏の暑さはまた格別でした。読者の皆様にはお変わりもなくお健やかにお越しのことと存じます。

リハビリテーションのプロセスの基本は評価であるといっても過言ではありません。日本リハビリテーション医学会の評価基準委員会でも、今田拓氏が委員長になって数年来評価の問題に取り組んで参り、すでに関節角度標示法について結論を出し、只今は ADL の評価について鋭意検討を進めております。

本誌で今回「評価」の問題を特集として取上げたのは、むしろ遅きに失したかもしれませんが、それだけに内容としては充実したものとなることができました。

上田敏氏の「成人片麻痺の評価」と、寺澤幸一氏の「脳性麻痺の評価」とは、ともに中枢性運動障害の評価という困難な、現在もなお流動的な問題に真向から立向ったもので、今後の見通しまで含んだ示唆に富んだ論文であります。前野進氏の「障害者の職能評価への試み」は、実験的なアプローチと共に評価の基本的な考え方を述べられた野心作であり、加藤和夫氏の「損害賠償における障害評価の法理論」は、法務官のお立場から損害賠償の基本的な理論を解説された力作であります。

す。橋倉一裕氏の「各法にみられる機能評価の比較」は、国立身障センター所長、日整会身障委員長として目下身体障害者等級表改訂に取り組んでいられる氏にしてはじめて可能な貴重な論文であります。

講座「心理テスト」(中司利一氏)は6回にわたり講述して頂きましたが、今回は最終回であり、読者に大いに裨益して下さったことをあらためて感謝します。

研究と報告「多発性硬化症の運動・動作障害」(中村隆一氏ら)も、中枢性麻痺の評価に関連する力作であり、「評価」の特集と同時に掲載できたことは、一層特集を充実させる結果となりました。「トランスデューサー」について一頁講座を続けて下さっている土屋和夫氏に読者からの感謝の声をお伝えし、最後に、PT、OT の養成について、五味重春氏の巻頭言の中から「今後は人材の育成に最大の努力を払わなければならない……」のお言葉を引用させて頂いて私の稿を終ります。

(土屋 弘吉)

去る8月24日、本誌編集同人の野本卓先生が亡くなりました。慎んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。(編集室)

次 号 予 告 (第3巻第10号)

巻頭言 女性的技術・看護のリハビリテーションへの貢献……都老研 遠 藤 千恵子

特 集 痙縮と固縮

痙縮と固縮の生理学的知見……千葉大 本 間 三 郎

痙縮の評価と物理療法……川崎医大 明 石 謙

痙縮と固縮に対するフェノールブロック……のじぎく園 金 原 広 之

痙縮に対する薬物療法……県立多治見病院 安 藤 一 也

固縮に対する薬物療法……都立府中病院 宇尾野 公 義

セミナ 電動義手セミナー——オットーボック社ブ

ー ルジンスキー氏の実技の解説……国立補装具研 飯 田 卯之吉

編集顧問

天 児 民 和

大 島 良 雄

小 池 文 英

砂 原 茂 一

津 山 直 一

水 野 祥 太 郎

編集委員

明 石 謙

上 田 敏

大 井 淑 雄

大 川 嗣 雄

荻 島 秀 男

土 屋 弘 吉

横 山 巖

編集同人

赤 津 隆

青 山 孝

今 田 拓

今 村 哲 夫

江 口 寿 栄 夫

小 野 啓 郎

河 邨 文 一 郎

金 久 卓 也

兼 松 英 夫

五 味 重 春

沢 村 誠 志

杉 山 尚

中 村 裕

野 島 元 雄

間 得 之

長 谷 川 恒 雄

橋 倉 一 裕

平 方 義 信

三 島 博 信

山 内 裕 雄

渡 辺 英 夫

飯 田 卯 之 吉

遠 藤 千 恵 子

小 川 孟

加 藤 一 郎

小 島 蓉 子

笹 沼 澄 子

鈴 木 明 子

高 田 玲 子

陳 慧 玉

(以上五十音順、敬称略)

(細田、田村、鹿島)